

## オリヒメ 人と人をつなぐ分身ロボット



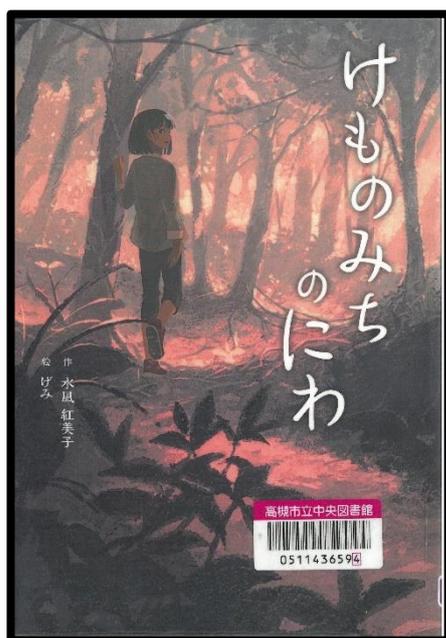
吉藤 オリィ/著 加藤 悦子/文  
子どもの未来社〔548〕

オリヒメは、色々な理由で行きたい所に行けない人のもうひとつの体、「分身」になってくれるロボットです。AI(人工知能)は入っておらず、スマートフォンやパソコンを使って遠隔で「人」が動かします。

制作した吉藤オリィさんの「孤独をなくしたい」という思いから生まれたOriHimeは、障害も距離も超えて人と人をつなぎ、さまざまな場所で活躍しています。

OriHime誕生までのオリィさんの軌跡がたくさん写真で紹介され、最後にはオリィさんからのメッセージがあります。

## けものみちのにわ



水風 紅美子/作  
げみ/絵  
BL出版〔913ミナ〕

5年生の風花は、山のふもとにひとりで住む大好きなおじいちゃんに、毎月会いに行く。そこには、人ではないものが通るという“けものみち”がある。“向こう側”を見通す目をもつ風花は、訪れるたびに、ちょっとこわくて面白い体験をし、いつしかおじいちゃんの秘密にふれる。

人はどこから来て、どこへ行くのだろう？ その不思議さが心に残る一冊です。

## ブラックホールの飼いかた



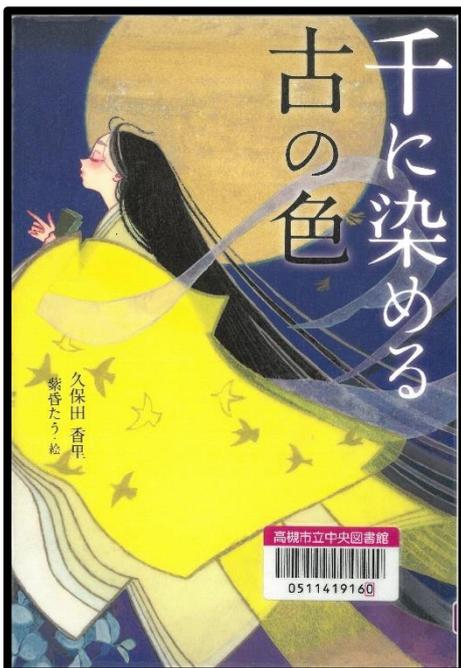
ミシェル・クエヴァス/作 すぎた ななえ/訳  
はやかわ よしお/装画・挿絵  
小学館〔933クエ〕

科学が好きなステラは、宇宙研究施設NASAからの帰り、ブラックホールにあとをつけられます。おそろしいと思いついながらも、人懐っこいブラックホールにラリーと名づけ飼うことにしました。

何でも飲みこんでしまうラリーに、嫌なものやパパの持ち物を飲みこませていくうちに、うっかり子犬まで飲みこまれてしまいます。

子犬を助けるために飛びこんだブラックホールの中で様々な体験をしたステラが、大好きな父の死を乗り越えていくお話です。

## 千に染める古の色



くぼた かおり/著  
しぐれ たう/絵  
アリス館〔913クボ〕

時は平安時代。十三歳になった右大臣の娘・千古は、裳着（成人の儀式）の前に外出を禁止され、退屈な日々を送っていました。

そんなある日、「かさねの色目」や「染め」に心ひかれ、衣が染められていく様子を見たいと思った千古は、ひそかに染め工房へと向かうのでした。

世間を知らなかった姫君が、まわりの意見にとられることなく、自分のことを自分で決めていく、心の成長の物語です。